

イベント等で使用するガソリン の取扱いに注意しましょう!!

火気を使用することの多いキャンプやバーベキュー、屋外イベントなどでは、ガソリンを使用する場合があります。火災が起きた場合には、被害が大きくなるのが危惧されます。

平成25年8月には、京都府内の花火大会会場において、ガソリン携行缶の不適切な場所での保管や取り扱いによる重大な火災事故が発生しております。

ガソリンは、引火点が低く、容易に引火する危険性があります。ガソリン携行缶の運搬、取扱方法、保管場所については、取扱説明書を確認の上、安全に使用してください。

ガソリンの特性は・・・

- ◎引火点は -40°C 程度と低く、極めて引火しやすい。
- ◎揮発性がとても高く、その蒸気は空気よりも約3～4倍も重いので、滞留しやすく可燃性蒸気が広範囲に広がしやすい。
- ◎移動や注油の際に静電気が蓄積しやすい。



**思わぬ事故を起こさないために、ガソリン携行缶
は正しく使用しましょう！！
詳しくは、次のページをご覧ください！！**

1 ガソリンの危険性は・・・

ガソリンは、『-40℃』であっても可燃性蒸気となり、静電気等の小さな火源で引火し、爆発的に燃焼します。

2 ガソリンを入れる容器は・・・

消防法令で一定の強度のある材質を使用することや、容量について制限されています。ガソリンは、灯油用ポリ容器に入れることはできません。

3 ガソリンの購入は・・・

ガソリンスタンドにおいて、本人確認や使用目的の確認を行い、購入することができますが、セルフスタンドでは利用者が自ら容器に入れることは、消防法令で認められていません。必ず従業員に注油してもらってください。

4 保管については・・・

ガソリンは揮発性が極めて高く火災が発生すると、爆発的に広がることから、消防法令で定められた容器で保管しますが、極力控えるようにしてください。

5 携行缶から注油する場合は・・・

周囲に火気が無いことをよく確認し、水平で風通しがよい場所で行ってください。注油前には、必ずエア調整ネジ等を緩め、携行缶内の圧力を調整してから、キャップを取り外してください。圧力の調整をせずにキャップを外した場合、ガソリンが噴き出したり、キャップが飛ぶなどの事故につながる危険性があります。

使用前には必ず携行缶の取扱説明書を十分に確認した上、使用してください。

携行缶の調整ネジ 例

※まずは、調整ネジ等を緩めてください。



6 イベント等で、保管が必要な場合は・・・

保管が必要な場合は、火気の使用が無く、日光等による温度変化が少ない場所に保管してください。ガソリン等を多く保管する場合には、事前に消防署に相談してください。